



沼尻竜典 × 角田祐子(かくた ゆうこ・ソプラノ).....

沼尻: 現代歌曲は本当に恐くないんでしょうか。

角田: 私も昔は恐かったです(笑)。でも「現代ものって歌う方も聴く方もすごく自由なんだ」と思い始めてから楽しくなりました。曲が出来た時代も私たちに近いですから、むしろモーツァルトより感覚的に分かりやすいとも言えますし。

沼尻: ラッヘンマンさんは現代ドイツのバッハと言われていたそうですね。

角田: 初めて出会ったのは今回取り上げる「ゴット・ロスト」の演奏をする事になった時です。私が専属歌手を務めているシュトゥットガルト歌劇場を通して依頼がありました。演技付きの上演で、当時妊婦だったのに逆立ちまでさせられて(笑)。私もあの時は根性がありました。

沼尻: その根性が名誉ある「宮廷歌手」の称号授与にも繋がったのでは。

角田: 私のような東洋人歌手に、バーデンピュルツテンベルクのような大きな州から称号が授与されるとは信じ難い事でした。

沼尻: 今回の聴きどころは?

角田: 特に予備知識は要らないので、とにかく来ていただいたら楽しいと思います。あえて言えば、ノーノが自由を得るための戦いの犠牲を嘆く音楽なのに対して、ラッヘンマンは我々が自由を得た今、支えを失い、道を失い、神を失ったのではないかと問いかける音楽なのです。神がない＝ゴット・ロストというわけです。

沼尻: ラッヘンマン作品はピアノパートも大変そうですね。

角田: ラッヘンマン自身ピアノがものすごく上手いですからね。素晴らしいテクニックを持つ末永さんなら、いろいろな特殊奏法も難無くこなしてしまうでしょう。



「現代歌曲、私も昔は恐かったです(笑)」

歌手たちの競演 5-S-7
角田祐子(ソプラノ)
～現代歌曲は恐くない!～
ピアノ:末永 匡

5月5日(土・祝)
16:00～16:40 [小ホール]
全席1,000円 18歳以下500円

[プログラム]
ノーノ:「生命と愛の歌ー 広島橋の上で」(1962)より
アリア Djamilia Boupacha(無伴奏)
ラッヘンマン:ゴット・ロストーわたしの洗濯カゴ
見ませんでした?ー

沼尻竜典 × 和谷泰扶(わたに やすお・ハーモニカ).....

沼尻: ハーモニカを始めたキッカケは?

和谷: 兄の音楽の成績が良くないのはハーモニカが上手く吹けないからと担任に言われ、両親がハーモニカの先生を探してきたのがキッカケで、後に私も習うようになりました。

沼尻: ハーモニカのブロ奏者というのは少ないですよね?

和谷: 大学時代はハーモニカソサエティーに所属していたのですが、3年生の時に全日本ハーモニカ連盟の欧州ツアーに参加することができまして、その時に出会った巨匠たちの音色の素晴らしさに打ちのめされ「自分にはこれしかない!」と思ったんです。実家が京都の老舗肉ソク店で、いざとなったら家業を手伝えれば良いと思って冒険ができた面もありますけど。

沼尻: 今回のプログラムについてお聞かせください。

和谷: テーマが「夢」だと伺ったので「夢か幻か…」ということで「幻想曲＝ファンタジー」を集めることにしました。その中でシャグランという作曲家は普段あまりなじみがないですが、この「ルーマニア・ファンタジー」は民族音楽も盛り込まれた楽しい作品です。ハーモニカという楽器の魅力を、最大限に味わっていただくコンサートにしたいと思っています。



「ハーモニカの魅力を最大限に味わってください」

円熟を聴く
和谷泰扶(ハーモニカ)
ピアノ:荒尾岳児

5月4日(金・祝)
14:00～14:40 [小ホール]
全席1,000円 18歳以下500円

[プログラム]
シャグラン:ルーマニア・ファンタジー
シューマン:幻想小曲集 op.73
サラサーテ(和谷編):カルメン・ファンタジー

沼尻竜典 × 折江忠道(おりえ ただみち・バリトン).....

沼尻: 歌手生活41年というのはすごいですね。

折江: いつの間にか41年過ぎてしまった感じです。でも精神的にはまだ30代ですよ(笑)

沼尻: 藤原歌劇団の総監督でもいらして忙しいでしょう?

折江: 公演を作る仕事に加えて、若手の育成などもありますから暇ではありません。でも若い人たちと過ごす時間は本当に貴重です。一緒に笑って泣いて、彼らから学ぶことも多い。それもあって気持ちだけは若いかな(笑)

沼尻: びわ湖ホールとは若杉芸術監督時代からのご縁そうですね。

折江: プロデュースオペラに二回出演させていただきました。要求されるレベルは高かったけれど、家庭的な雰囲気だったのを覚えています。こんなに良い環境でオペラが出来る所は、なかなか他に無いと思います。

沼尻: 「歌手たちの競演」の大トリをつとめていただくわけですが、楽しそうな作品が並んでいます。

折江: 「ファルスタッフ」のアリアのあとは、オペレッタとミュージカルから選曲しました。「白馬亭にて」は元々ドイツ語のオペレッタですが、イタリア留学時代にイタリア語版に最初に出会ったので、今回もその懐かしさを込めてイタリア語で歌います。「南太平洋」のナンバー「魅惑の宵」も名曲です。作品の内容を分かりやすくするために、ちょっとした小道具も用意しますので、リラックスして楽しんでいただけるコンサートになるでしょう。



「リラックスして楽しんでいただけます」

歌手たちの競演 5-S-8
折江忠道(バリトン)
～歌手生活41年 折江忠道七変化～
ピアノ:河原忠之

5月5日(土・祝)
17:00～17:40 [小ホール]
全席1,000円 18歳以下500円

[プログラム]
ヴェルディ:「ファルスタッフ」より「名譽だど! 泥棒め!」
カールマン:「伯爵令嬢マリツア」より「さあ、ジブシー!」
ペナツキー:「白馬亭にて」より「白馬亭こそ素敵ホテル」
ガーシュウィン:スワンダフル
ロジャース:魅惑の宵、シャルウィ・ダンス?
ハーマン:ハロー、ドリー!